

平成24年度 事業計画書

自 平成24年 4月 1日

至 平成25年 3月31日

学校法人 尚美学園

尚美学園大学 平成 24 年度事業計画

1. 平成 24 年度 教育・運営目標

少子化による大学進学者の激減、円高によるさらなる経済不況、東日本大震災・福島原発事故被害等、大学経営はかつて経験したことのない難しい深刻な時代を迎えている。

また、伝統的な入学試験の合否判定で、定員の 1.3 倍を確保する時代は終焉し、多様な募集方法を組み合わせて、入学定員を確保しながら、高等教育としての質的向上を求められる時代を迎えている。

このような大学経営の複合的困難な外部環境変化と変化を嫌う内部環境を踏まえ、本学はいかに適応・対応し、学園の歴史、伝統そしてプライドを継承し、生き残りを図っていくべきか。

平成 25 年度のキャンパス統合に向け、平成 24 年度の基本方針と運営目標を掲げ、この目標を実現するための予算編成を行った。

「教養・専門・キャリア」教育の三位一体の 3 つの教育目標

- (1) 対自己：学ぶ方法論と習慣が身についているか・・・常に学び続け、エネルギーに行動しながら、目標に向かって自分をコーディネートしていく力（社会・モラル、環境適応力、ストレス耐性、自己統率力、セルフプロデュース力）
- (2) 対人（組織）：自分を主張するだけでなく、まず相手を理解する。相手と知識の交換や共有ができ、それぞれが持っている知識を持ち寄り、まとめていくコラボレーション能力（他者理解、説得力、育成力、状況理解力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力）
- (3) 対課題：自分で目標や課題を設定して、そのために何をするか、どう解決するか、自分で決め、実践することができる能力（情報収集力、問題分析力、計画力、判断力、意思決定力、表現力、制作力、実践力）

キャンパス統合に向けての教育改革・組織風土改革の取り組み課題

- (1) FD、SD、UD による教育改革、組織風土改革の研修の開催
 - ① 統合に向けて両学部の協働（コラボレーション）による学園名の「美を尚（尊）ぶ」及び建学の精神「智と愛」に基づくユニヴァーシティ・アイデンティティへの取り組み
 - ② 第三者認定評価機関へ提出している本学の課題と改善施策への取り組みの徹底
 - ③ 自己点検・評価による PDCA サイクル運営の各教職員、各分野、各部門への浸透
 - ④ 基本教育構想会議の「改革提案」の実践。第一次提案の生きる力（人間力、社会人基礎力）を培う「教養・専門・キャリア」教育の三位一体教育の推進。第二次提案のゼミ中心の面倒見の良い教育の展開（個人指導とグループワーク教育による絆づくり、ゼミ教育を通しての自立・自助・互助の習慣形成）、第三次の改革課題（現在の取り組み）は統合メリットを反映した「大学・学部・学科・大学院」のコア・コンセプトのデザインと授業科目への反映
- (2) 入学定員 1.3 倍の入学確保のための募集方法の革新
 - ① これまでの募集方法の点検と教職員協働の改善工夫の実践
 - ② 近隣競合大学と本学の差別化・特色作りとメディア・ミックスの PR・広報戦略の展開
 - ③ 指定校・提携校との双方向の教育交流促進（例：e-ラーニング、OCW 活用、出前模擬授業）
 - ④ 埼玉高文連を通してのサークル活動との交流、指導担当の先生との交流促進

(3) 入学一年次の新入生に対するオリエンテーションの充実

① 大学生活キックオフの開催

大学は社会で活躍するための最後の学習の場、社会的役割への覚醒と自己修練への自覚の場

社会人としての基本は品格のマナー習得が出発点

本学が求める SHOBI スタンダードとしての学生像、学びの姿勢、行動規範の明示

② 基礎ゼミにおける 4 年間の大学生活設計の立案支援

履修指導の徹底、個別学生の PDCA サイクル支援、プレゼンテーション方法支援とゼミ仲間と

の絆づくり環境の創出。基礎学力習得、パソコン・IT 機器の操作学習、教養・倫理観、他者と

連携・強調できるコミュニケーションの学習支援

③ グローバル時代に備えた「使える英語」学習機会の創出（国内生向け）

国際交流、海外研修プログラムへの動機づけ、異文化交流の現場で使える英語体験の機会創出

④ 留学生対応の日本語、ビジネス日本語の資格取得支援の強化

⑤ 少子化全員入学時代の基礎学力不足の学生の為のレメディアル教育（治療教育）への対応（教育の質保証）

(4) 二年度以降の PDCA サイクルの学習支援（職業選択に焦点を当てたキャリア教育）

① 二年度前期のゼミ中心の教育目標

進路選択への取り組み支援（学習目標の発見と理解、資格取得の目標設定、コミュニケーション

力アップ、ビジネスセンスの理解、職種・仕事の理解）、基礎学力アップ、総合性と専門性の

知識・技術の確かな習得、総合ゼミ、卒論・卒演・制作課題の方向性の決定、人間的魅力・品

格の養成、自己表現力（プレゼンテーション力）アップ

② 二年度後期から三年度前期のゼミ中心の教育目標

「教養・専門・キャリア」科目のバランスのとれた履修科目指導支援

各学生に PDCA サイクルによる点検強化を指導し、目標達成状況をチェックする習慣形成。教育

の質保証を把握するシステムの構築と活用。ゼミのトピックスとして、将来の進路について

考える機会を挟む。自習課題として、自己分析・企業研究・履歴書作成、一般常識&専門知識

の確認、マナーの習得（以上、準備フェーズ）、インターンシップやボランティアなど実践体験

により自分の適性が生かされる職種を理解させて、業界や企業の絞り込みをさせる。（進路目標

決定、就職活動準備、インターンシップ／ボランティア参加、企業研究／訪問）

③ 三年度後期から四年生のゼミ中心の教育目標

大学生活後半のキックオフを実施し、入学から 2 年半の学習・交友きずな・大学生活を振り返り、

残り 1 年半のリグレットのない行動計画立案を支援し、学業と就職活動をバックアップ。

就職活動への具体的支援を行う。自己のキャリアデザインの確認、企業選択（判断・意思決定）、

就職活動（採用試験）、自己の適性を理解した上で希望する職種・業界・企業に就職活動する。

本人の活動履歴をフォローして目標や問題点を理解させる。実践的な行動を。（情報収集、実行

方法、意思決定）

④ 統合メリットを生かしたキャンパスライフを彩るサークル活動と学園祭の支援

(5) 地域社会貢献プロジェクトの推進

高等学校、地方公共団体、各種研究機関との連携を通じた地域貢献による大学存在価値の創出

(6) 産官学民プロジェクトの推進

企業、各種研究機関、地方公共団体、教育機関、市民等との連携を通じた教育研究・地域活性化プロジェクトによる大学存在価値の創出

2. 平成 24 年度 事業計画概要

(1) 教育研究の向上、推進

- ① 基本教育構想を通じた大学教学改革の取組を通じて、社会の期待に応え、魅力のある教育研究を推進する。
- ② 各分野におけるリーダー的な人材を特別講師、ゲストスピーカーとして委嘱、招聘し、授業、特別講座などを通じて、最先端の知識、スキル、情報に接する教育研究の場を創出する。
- ③ 学内研究会、演奏会、展示会等を通じた視野と表現能力の育成を図る。
- ④ 演習・実習授業による体験が学習を推進し、実感できる学習の場を創出する。
- ⑤ 教員の研究を促進し、研究から得られたさまざまな知見を学生に還元する。
- ⑥ 円滑な授業運営を実現するためにTA、SAによる支援体制を整える。

(2) 学生支援

- ① 学業優秀者への奨学制度の維持・充実を図る。
- ② サークル等を通じた学生諸活動を支援する。
- ③ キャリア形成に寄与するサポートを充実する。
- ④ 国際性豊かな人材育成に向けた環境整備を図る。
- ⑤ 東日本大震災被災学生を支援する。

(3) 教育環境の整備・充実

- ① 教育機器の更新、修理による適切な教育環境の確保
教室機器更新、楽器メンテナンス、実習機材 他
- ② ネットワーク環境、コンピュータ学習環境の維持、充実
ネットワーク機器、アプリケーションライセンス、ネットワーク及びPC環境保守、
コンピュータウィルス対策 他
- ③ 学生諸活動支援備品の更新
学生諸活動機材（バスケットゴール、掲示板）他
- ④ 維持管理
電気、水道、ガス、スクールバス、清掃委託、消耗品 他

(4) 広報・学生募集

(5) 教職員の資質向上

尚美ミュージックカレッジ専門学校 平成 24 年度事業計画

1. 平成 24 年度教育・運営目標

音楽の私塾として開設された「尚美」は、85 年の歴史をたどる中で、時代の要求に対応すべく学科・コースの改変を重ねつつ、今日を迎えている。そしてこれまでの「堅実な教育」が評価され、音楽を志す若者、その家族、高校、分野・業界からも強い信頼を得てきた。

少子化や経済不況に加え昨年の天変地異も重なる状況下で、「音楽」の力が見直され、本物が再評価される時代の到来を実感しつつあり、音楽を目指す若者を応援するという音楽学校の使命を真摯に受け止め、これまで以上の教育体制の充実を図るものである。

また、本学の教育の特徴は、技術教育は勿論のこと、それ以上に人間の成長に大切な影響を与えるであろう“感動体験”の積み重ねによる、高い達成感を得る場があることである。数ある授業やレッスンで磨いた技術を、業界レベルの質の高いステージづくり・作品づくりを通して、講師と学生とが一体になって汗と涙で創り上げる“感動体験”が多くあり、これがコミュニケーション能力を高め、人を信じる力を強め、生きていく力強さを身につけるための柱になる。

「3つの教育ポリシー」

下記の3項目を「3つの教育ポリシー」として指導にあたり、教師と学生との厳しくも人間味のある触れ合いの中で、学生の成長をしっかりとサポートしていく。

① パーソナル教育（個人教育）

音楽教育の特質である個人レッスンや担任指導を軸に、学生一人ひとりと教員が一对一で向き合うことで、学生個々の目標を支援し、将来活動に繋がる専攻力、人間力を育成する。

② 実践教育

業界から求められている要求に応え、豊富な現場体験を持つ第一線のプロの講師による教育を展開（技能・資格・実体験・経験など）し、社会力を育成する。

③ コラボレーション教育

所属学科のジャンルを越えてお互いを刺激し合う活動により、専攻力以外の技能（企画・制作・プロモーション・マネジメント他）を育成し、自らの仕事や、生き方を創造できる力を育てる。

「教育推進目標」

「3つの教育ポリシー」推進のための具体的な取り組みとする5つの「教育推進目標」

① 物事の真理を捉える為に必要な理論に基づいた教育の徹底

（理論/基本）→ （業界/現状）→ （応用/将来）

② メディア・情報ツールの活用によるセルフプロモーション能力や、将来の活動のための活用力の育成

③ 著作権教育を推進し、知的創造と制作に関わるマネジメント力を育成

- ④ 学科を越えたコラボレーション活動を推進し、多様な専門性を持つ者同士の協働実体験により、企画・制作・プロモーション・マネジメントについての能力を育成
- ⑤ 専攻の専門性にふさわしいレベルでの楽譜の理解と、活用できる能力の育成

(1) 教育内容と教育手法について

授業・レッスン担当講師と協力体制を強化し連携を深くして、SHOBI メソッドの確認を行う。

- ① 授業・レッスンが、どのような内容で、どのような手法で行われているかを、教育現場の視察、担当講師とのミーティング、シラバス・授業報告書などの提出物の3つの側面から確認する。
- ② それぞれの授業科目が、学科のカリキュラム・教育システムの中で、どのような意味を持つのかを「教育推進目標」に照らして明確に位置づけ、各担当講師に十分な理解を図る。
- ③ SHOBI 独自のカリキュラム、科目をクローズアップし、その特長と有用性を専任は十分に理解・認識すると共に、科目担当講師や学生にも理解の徹底を図る。
- ④ 学科独自の教育システム、科目や担当者独自の教育手法をチェックし、有用な手法を情報として学科内で共有すると共に、教材や教育手法（SHOBI メソッド）として一般化・体系化の可能性を探る。

(2) 学科・部署に於ける行催事計画について

学科・部署の行催事は、直接あるいは間接的に学生の教育を目的とするものであり「3つの教育ポリシー」に基づき各部署が計画を策定し、実行する。

- ① 行催事は、「実践教育」を伴っているか、特に「実践活動によるスキルアップ、レベルアップを実現すること」を目指して計画し実施する。
- ② 該当学科は“育成する人材像”を常に目標に掲げ、教育方針との整合を図る。

(3) 日常運営について

学校における教職員全ての業務は、学生とその教育のためにあり、日常運営は受益者である学生にとって有益かつ公平なものでなければならない。

- ① 学科の全ての学生に対して、学科や担当が「同じ基準」で指導するために、専任が情報を共有するための十分な連絡、確認を行う。
- ② 学科の全ての学生に対して、専任と科目担当講師が「同じ基準」で指導するために、学科の運営方針を徹底し、日常の情報共有に努める。
- ③ 学科専任（担任）は、それぞれの担当業務、勤務曜日、勤務時間、シフト勤務を十分に確認し、学生指導、学科運営、行催事運営に空白や齟齬を生じないように、業務を円滑、確実に推進する。

2. 平成 24 年度事業計画概要

(1) 教育の向上

- ① 各学科が育成する人物像をより明確にし、カリキュラム、科目、教員を見直し、外部から見ても分かりやすく、魅力ある学科の構築を推進する。
- ② 音楽・パフォーマンス・エンタテインメントプロデュースの各分野でオピニオンリーダーとして名高い方を学校の特別講師として委嘱し、授業・レッスン・特別講座を実施して、最先端の知識、スキル、情報の習得を図る。
- ③ 各学科の優秀者に対して指導を行い、更なるレベルの向上を図る。
- ④ 音楽ビジネス業界のフォーラムを開催し、業界の視野を広げるとともに、これからの音楽業界に向けて情報を発信する。
- ⑤ 学科、学生の教育成果を公演、演奏会、イベント、イベント制作、メディア制作等にて、学外、学内に広く発表、発信を行う。全学科の年間イベント数は60本。発表、発信で得た評価を更なる教育の質の改善に反映させていく。
- ⑥ SHOBI インターネットテレビで、学生の演奏会・作品・プロフィール・学科の紹介を配信して、外部へ広く公開し、学生のプレゼンテーションと学校のPRの拡大を図る
- ⑦ デビューセンターを活用して学内オーディションの実施と優秀者のメジャーデビュープロデュースを行う。
- ⑧ 地域、企業と提携した演奏会・発表会を行う。

(2) 学生支援

- ① 奨学金（新入特待生、新入ユニーク奨学生、新入社会人奨学生、新入留学生奨学生、進級特待生、進級勉学奨学生、震災被災奨学生）
- ② クラス単位での研究、懇親のためのクラス運営費
- ③ 資料室整備、ナクソスミュージックライブラリー運営費
- ④ キャリアセンターの社会資格・就業支援プログラム講座等の運営
- ⑤ 国際交流センター運営（留学生のフォロー）

(3) 教育環境の整備・充実

- ① 建物・施設
消防設備、空調設備、電気設備 他
- ② 機器
照明・音響機材、映像関連機材、楽器類 他
- ③ ネットワークシステムの維持、整備
サーバホスティング、インターネットサービス、サーバ保守、基幹ネットワーク保守、LAN運用保守、教室PCメンテナンス、コンピュータウィルス対策、教職員PC更新 他
- ④ 管理維持
電気、水道、ガス、施設保守、清掃委託、運搬、教育用・事務用消耗品 他

(4) 広報・学生募集

(5) 教職員研修

平成 24 年度 資金収支予算書（学園全体）

（単位：千円）

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	5,045,520	人件費支出	2,693,439
手数料収入	31,500	教育研究経費支出	1,361,261
寄付金収入	74,000	管理経費支出	903,741
補助金収入	210,000	借入金等利息支出	4,167
資産運用収入	15,000	施設関係支出	3,602,095
事業収入	13,000	設備関係支出	129,061
雑収入	50,000	資産運用支出	40,000
借入金等収入	1,000,000	その他の支出	338,000
前受金収入	2,910,000	予備費	60,000
その他の収入	1,605,500		
資金収入調整勘定	△ 2,970,000	資金支出調整勘定	△ 368,000
前年度繰越支払資金	5,812,679	次年度繰越支払資金	5,033,435
収入の部合計	13,797,199	支出の部合計	13,797,199

平成 24 年度 消費収支予算書（学園全体）

（単位：千円）

消費収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金	5,045,520	人件費	2,723,639
手数料	31,500	教育研究経費	1,976,261
寄付金	78,000	管理経費	973,741
補助金	210,000	借入金等利息	4,167
資産運用収入	15,000	資産処分差額	1,000
事業収入	13,000	徴収不能引当金繰入額	30,000
雑収入	50,000	予備費	60,000
帰属収入合計	5,443,020	消費支出の部合計	5,768,808
基本金組入額合計	△ 147,500	当年度収支差額	△ 473,288
消費収入の部合計	5,295,520		

以上